

地球市民

多様性

多様性（ダイバーシティ）とは、幅広く性質が異なる群が存在すること。自然界においては数多くの種類の生物が存在することで、その生存率を上げる効果がある。例えば植物でも同じような種類の植物が様々な環境に適応するためにその種を増やすことである。針葉樹のスギやヒノキもその環境に応じて種を増やした結果、世界中にその生態を適応させている。

社会における多様性は、地域や民族、宗教の違いによってもたらされる文化の違い、その置かれている環境の違いなどで価値観の多様性が上げられる。現代の社会において、この多様性が重要視されている理由として、情報の共有化における単一化が上げられる。これはインターネットが世界中に張り巡らされ、多くの携帯情報機器（スマートフォンなど）が普及したために世界中の人々が情報でつながることになったことが大きな原因に上げられる。このことにより、様々な文化が世界の中で交流することになった。文化の交流が進むと一つの懸念としては同じような生活様式になり同じような思考が増え多様性が失われるということである。もう一つの方向として、文化の交流が進むことで人的な交流も進み、一つの社会の中で多様な文化が共存する多様性の社会の実現である。これは君たちの住まいの隣に別の文化を持った人たちが生活をするということである。これは、近い将来必ず現実になることである。そのときに、この多様な文化を受け入れられるのかということである。この多様性を受け入れることができなければ単一化が進んでいく要因になる。しかし、この多様性を受け入れることで、いろいろな考え方にあふれ非常に大きな力に方向づけられるのである。これは、まさに自然界における多様性と同じであり、多様性はその生存率を上げていることになる。この多様性の社会は非常に競争力の高い社会となるのである。

多様性を認めない単一の社会になると、集団が同じような考え方になり個人というものが、個人である理由を失われてしまう恐れがある。多様性のある社会においては、考え方の違いによって個人としての経験が総合的に共鳴し合い高め合う傾向になるのである。だからこそ、この現代において多様性は重要視されるのである。

ボーイスカウトにおいては、ベーデン-パウエルが100年前よりこの多様性というものの重要性を説きこの運動に取り入れられている。ベーデン-パウエルは『スカウティング フォア ボイズ』の中でこう説いている。「スカウトは自分の周りにいる人だけの友だちではなく『世界のすべての人の友』だということを忘れてはいけない。」これはスカウティングの世界兄弟愛運動という形で現在でも受け継がれている。そうジャンボリーである。ジャンボリーこそ世界兄弟愛運動であり多様性を深く学べる場なのである。

スカウティングを通して世界中の仲間と活動を共にすることはボーイスカウトならではの活動である。特にベンチャー活動ではジャンボリーに参加するだけでなく、その高度な行動力で積極的に文化交流を行うことによって、この多様性の社会の実現に向けて多様な文化や考え方にふれることが求められるのである。

このような体験は、必ず君の将来にとって大きな力となることだろう。これからの世界は非常に複雑化した多様性の社会となるのである。スカウティングの活動において自然研究はとても興味のあるスカウトらしい活動である。この自然観察、自然研究をすることによって、その自然界における多様性を体感できることは、君にとって非常に価値が高い。



地球環境

君たちが将来を考えるうえで大きな問題として環境問題がある。地球人口が増え大量消費の時代になり、その過程で起こる環境への汚染がこれからの人類にとって非常に大きな問題となっている。このまま、何の対策も取らないままに環境破壊が進むような事態になれば、この世界は持続していくことが不可能になるのである。この問題は国連でも重要な課題として捉えられ 2015 年に国連で採択された「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) 」SDGs(エスディージーズ)としてグローバルな社会目標として掲げられた。これは、この社会に住む一人ひとりが社会生活を営むうえで持続可能な社会の実現のために取り組まなければならないもっとも大切な人類としての課題である。

これからの世界を担っていく君たちはこの開発目標に対して何らかの形で取り組まなければならない。まずは SDGs の概要を知り、そのことに対して自分は何ができるのか考えてみよう。

持続可能な社会の実現のためにできること

持続可能な社会の実現のために、君たち一人ひとりの行動が大切になる。一人ひとりの行動はとても小さなものを感じるかもしれないが、その一人ひとりの意識が向上することで人々の関心が高まるのである。その関心の高まりが社会全体を動かし大きな流れとなっていくのである。これはベーデン・パウエルが言った「この世の中を、君が受け継いだ時より、少しでもよくしてあとに残すように努力する」ことなのである。君が環境のためにできることは多くある。難しいことをするだけでなく、例えばこまめに電気を消すだとか、電球を消費電力の低いものに交換する、買い物に行くときにマイバッグを携帯するといった簡単なことの積み重ねが大切なことである。そして、そういった行動を積み重ねていくことで社会に問題とその解決について発信していくことができるのである。



人権

人権とは、単に人間であるということに基づく普遍的権利である。人権は世界中のすべての人たちが生まれつきに持ち、誰からも侵されることのない基本的な諸権利である。これは国際人権法によって国際的に保証されているのである。

人は生まれながらにして人として生きていくために、その権利が保障されている。人種の違い、性別の違い、宗教の違い、文化の違いなどで決して迫害されることがあってはならないのである。この考え方は、すべての人たちの考え方を尊重するということである。少数意見をマイノリティだからといって、ないがしろにして尊重しないといったことはあってはならないことである。君たちはこれから大きな社会に出ていくことになるが、そこで出会う世界中の人々、一人ひとりに対して、その個人を個人として尊重し、受け入れられるようにならなければならない。これは自分とは違う考え方だからといって拒絶するのではなく、一つの考え方として受け入れることである。君の考え方を変えろといっているのではない。意見として受け入れよう、ということである。そういった考え方もあるのだなど、ただ受け入れるだけでよいのである。これはスカウトの世界兄弟愛運動である。すべての人々を兄弟として友として迎え入れるのである。「世界のすべての人の友」として受け入れるのである。そうすることで国を超えた友情が芽生えお互いを分かり合えるようになるのである。この考え方は、公民としてとても大切なものである。

これからの世界

21 世紀になり文明が発達して情報の発信が容易になり、世界中の出来事が、世界のどこにいても瞬時に手に入れることができるようになった。交通も高速大量移動の手段が確立され世界のほとんどの所へ容易に移動できるようになった。このことで人の往来が活発になり世界中の国々が多様な人種、文化を



受け入れるような社会になりつつある。さらに今後、世界中の人々が様々な形でつながっていくようになるはずだ。そして、おそらく近い将来に人類は地球を離れて。その生活の場を宇宙や他の星へと広げていくような世界が待っていることだろう。これは歴史的に見てベーデン-パウエルが生きていた時代の産業革命と同じように、おそらく後年には歴史に刻まれる大転換期の時代となるだろう。だからこそ、君たちはこれからの社会を担っていくうえで、これからの世界について深く考え、この世界が今よりも少しでも良い方向へ進むように導いていかなければならない。そのためには、今の常識にとらわれることなく時代に合った柔軟な考えを持ち、変わってはいけないことと、変わらなければならないことを理解して、自分自身も変わっていくことである。人間の本質というものとは変わることはない。

しかし、生活様式というものは時代によって変化していくということである。これからの世界はますます便利なものがあふれ自分で考えることをしなくてもよいようなことが増えるだろう。しかし、いくら便利な生活を追求しようと、いくら効率を追求しようとも、そのことだけから真の幸福というものにたどり着くことはできない。幸福というものは人間の本質のなかにあるものだから、時代がどんなに変わろうとも幸福を実感するということは変わるものではないのである。だからこそ、スカウティングをとおしてほんの少し不便な生活を楽しんでみるということは大変よいことなのである。そして、そういった体験をすることで今の文明の良さを体感でき良い世界というものがあるのを知ることができるのである。

もう一つこれからの世界について深く考えていかなければならないことがある。それは、これから世界を待ち構えている問題である。これからの世界に差し迫った問題として人口問題が上げられる。地球上の人口が爆発的に増え大きな問題となる。そしてその人口問題に起因する食糧問題、環境破壊による異常気象、地域格差や貧困、紛争などによる難民問題など、人類にとって非常に大きな問題を抱えている。これらの問題を解決していくこともまた、これからの世界を担っていく君たちの使命なのである。スカウティングをとおして学んだ問題解決力を社会に役立てることも意義のある生き方になることだろう

以上

